

多様なこんぶくろ池 キノコの観察会

大貫遵子（柏市）

日 時：2010 年 10 月 17 日（日）

場 所：正連寺～こんぶくろ池周辺の森（柏市）

参加者：子ども 10 名 大人 14 名 指導員 7 名 計 31 名

企画運営：NPO 法人こんぶくろ池自然の森、講師：大作晃一氏（千葉県菌類懇話会）

スタッフ：森 和成、大貫遵子、山下紀子、古橋 勲、黒川真行、遠藤利夫、宮ノ前仁美

当日は曇りのち晴れ、気温 24℃。降雨もなく、スズメバチも飛来せず、キノコ数もまずまずで順調に進行できました。

朝の挨拶、森会長の整備のお話、大作講師の菌根菌・腐生菌のお話、古橋理事のスズメバチについての注意事項の後、管理棟を出発しました。ワタラセツリフネの草地を回り、種の弾けるのを見ながら、こんぶくろ池経由で弁天流路橋を渡り、中央遊歩道の左右の林縁からキノコを探しました。大小さまざまのキノコ、林の中に美味しそうなガンタケを発見、講師に質問しながら土に手を入れ採取、木の枝に出ているサルノコシカケ科を枝ごと採取しました。みんな真剣に草の中を探しました。弁天池湿地の通路では、巨大なサケツバタケ、ノウタケが出ています。これは、チップを撒いたため出てきたキノコです。草地の中にスッポンダケの白い幼菌が数個、類球形をスタッフが見つけました。管理棟前では、巨大なカラカサタケ、新顔のムジナタケの群生がありました。

みんなで採取したキノコは 25 種、大きなシートに紙を敷き、その上に並べ、いよいよ大作氏の同定説明でキノコ名が記入されます。スッポンダケの白い卵のような幼菌を半分に切ると、中には、黒い傘、白い柄の部分が内蔵されています。カレーの匂いのニオイワチチダケ、みんなの関心の、「食べられるキノコ、毒キノコの仕分け」などを判り易く説明されました。胞子など難しい話もあったけれど静かに聞いています。今回は、ひめしやら文庫のママの会のメンバーが多数参加しており、小学 3 年生以下の幼稚園の親子で普段見られないキノコの触感や採取の楽しみがあり、楽しかったようです。キノコの名前や疑問に講師が答えてくれたのも良かったです。ドングリ拾いの子、図鑑持参やメモを用意したりとても熱心でした。

来年も参加したいとの感想があり、こんぶくろ池のキノコの多様さを知って、この自然度の高いことを知る良い機会でした。今年 10 回目の観察会で、キノコの出現数は 118 種でした。今回は、子どもの参加が多かったので、子ども向けのカリキュラムの作成も必要であったかもしれません。

